

長野県公共交通活性化協議会 第1回北アルプス地域別部会

会議録

日 時 : 令和4年(2022年)2月1日(火)

13時30分から15時30分まで

場 所 : 県大町合同庁舎 講堂

(オンライン/対面併用により開催)

1 開 会 【事務局】

2 あいさつ 【北アルプス地域振興局 滝沢局長】

各位におかれては長引くコロナ禍、とりわけ昨今のオミクロン株による爆発的な感染拡大下にあっても変わらず安全・安心な公共交通の維持に日々御尽力いただき感謝。

コロナ禍の収束が見えない中、県ではアフターコロナを見据え、官民連携により持続可能で最適な地域公共交通を再構築するため、活性化再生法に基づく法定協議会を昨年11月に設置するとともに、全体会議を開催したところ。

一方、本日の地域別部会は、北アルプス地域における生活交通のあり方や、持続可能で最適な公共交通システムの構築といった観点から、この地域の課題や取り組みの方向性について関係各位とともに協議・検討を行い、より良い地域公共交通を実現していくための推進本部として設置したもので、その内容は、県全体で策定する「長野県地域公共交通計画」にも反映させていく予定。

地域にとって必要不可欠な公共交通を維持していくため、今後は県も主体的に関わりながら、広域的な公共交通ネットワークの最適化に向けた取組を関係の皆様と一緒に進めていく所存。今回、様々な立場の委員各位から率直なご意見やお知恵を頂戴しながら、地域の持続可能な公共交通のあり方を皆様とともに検討してまいりたい。

そして、現在この地域で暮らす住民はもとより、将来の世代に対しても地域の大切な公共交通を残していけるよう鋭意取り組んでまいりますので、御協力をお願いしたい。

ところで、県では総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」が来年度末をもってその計画期間が終了することから、新たな計画づくりに着手したところ。

この次期5か年計画の策定にあたっては、多くの県民からご意見を頂戴したいと考えており、地域の重要課題である公共交通についても、委員各位のご意見を参考とさせていただき、次期計画の策定にも反映させていきたいので、様々なご意見を頂戴できれば幸い。

3 委員紹介 【事務局】

(配付した出席者名簿をもって紹介に代える。)

(長野県公共交通活性化協議会地域別部会設置要領第4の規定に基づき、地域別部会の会長には北アルプス地域振興局企画振興課の土屋課長が就任し、副会長には大町市情報交通課の松井課長を指名)

【大町市情報交通課 松井課長】

昨年4月から情報交通課に配属。

各位のご協力をいただきながら職務に取り組んでまいりたい。

4 会議事項

(1) 基調講演「地域公共交通の重要性、県の役割、そして本協議会の使命」(資料1)

【名古屋大学大学院 加藤 博和 教授】

動画視聴

(2) 長野県の交通政策の現状・課題と今後の取組について(資料2)(資料3)

【長野県企画振興部交通政策課 小林課長】

資料に基づき説明

(意見交換)

【白馬観光タクシー(株) 風間代表取締役】

フランス等の諸外国では自転車を列車に載せることができる。日本の場合は欧米と違い、管理者責任となるので、昔は貨客混載が難しかったようであるが、最近ではバスやタクシーで一部輸送できる形となっている。

特に大糸線は風光明媚な場所を通り、外国人にも人気がある。また、行きは自転車で観光し、帰りは疲れているので列車に自転車を載せて帰りたいという声が寄せられている。

イベント列車ではなく、常時、自転車の乗り降りが自由にできる取組を本部会で検討することは可能か。

【県交通政策課 小林課長】

大糸線の南小谷駅から糸魚川駅間で昨年もサイクルトレインを運行しており、ご質問いただいた観点は重要なものと考えている。

自転車利用をどう鉄道に結び付けていくか、大糸線だけではなく他路線でも要望があるので、どのように進めていくか鉄道事業者も含めて検討してまいりたい。

(3) 地域公共交通最適化サポート事業について(資料4)

【特定非営利法人 SCOP 富樫主任研究員】

資料に基づき説明

(意見交換)

【池田町住民課 蜜澤課長】

松川線の運賃について、松川線は全ての区間を 150 円で乗車できるので、カルテの最長区間運賃について訂正願いたい。

【特定非営利法人 SCOP 富樫主任研究員】

そのように訂正する。

5 その他

(1) 公共交通情報オープンデータ化推進事業について(資料5)

【県交通政策課 小林課長】

資料に基づき説明

(意見交換)

【安曇観光タクシー(株) 耳塚代表取締役社長】

次回以降、タクシー事業者や地域交通事業者の抱える課題について、具体的に取組んでいただきたい。地域の公共交通が活性化すればするほど、タクシー事業者は弱体化しているような状況。

まずは、次世代の担い手の確保を考えていただきたい。AI 等の技術が普及していくと思うが、そういったものを年齢の高い世代が一から覚えていくのは困難な状況であるので、少なくとも、40～50 代の方が従事できるような収入の確保を課題としていただきたい。

また、山間部地域の方について、今は元気に歩けているが、80 歳を超えると荷物を提げて歩いていくのは困難である。路線バス停留所までのデマンド交通が必要であるため、県からの補助金を出すなど、検討をお願いしたい。

また、私どもが請け負っている路線でバスセンターがあるが、現在のところ、女性運転手を雇用できるような環境にない。施設改修経費についても、県から補助し、女性運転手の確保を図るとともに、公共交通事業者に対し、明るいイメージを持たせるような取組も今後の検討課題にしていきたい。

【北アルプス地域振興局企画振興課 土屋課長】

次回以降の課題として、タクシー事業における課題を3点いただいた。

事前アンケートを含め、いただいた課題を基に部会で検討を進めてまいりたい。

6 閉 会 【事務局】

以上